



# 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT） 令和3年度公募説明会

## 地域共創分野POメッセージ

令和3年5月27日

プログラムオフィサー 中川 雅人  
(JSTシニアフェロー/株式会社デンソー フェロー (嘱託) /  
広島大学 客員教授)



# 自己紹介



中川 雅人 (なかがわ まさと)

JSTシニアフェロー

株式会社デンソー フェロー (嘱託)

広島大学 客員教授

## 経歴

1980年 広島大学工学部第一類機械工学課程 卒業

1980年 株式会社デンソー (旧 日本電装株式会社) 入社

2003年 デンソーセールスUK チーフエンジニア (次長級)

2005年 デンソードイツ アーヘン研究所所長 (次長級)

2006年 デンソードイツ アーヘン研究所所長 (部長級)

2015年 株式会社デンソー 常務役員 兼デンソー欧州統括社長(CEO)

2016年 同社 常務役員 兼デンソー欧州技術統括(CTO)

2017年 同社 エグゼクティブフェロー 兼グローバル技術渉外統括者

広島大学大学院先進理工系科学研究科 客員教授

2019年 株式会社デンソー フェロー (嘱託)

FEV Japan株式会社 取締役 兼技術統括責任者

2020年 現職

## 専門分野

内燃機関及び噴射システム技術

自動車分野の技術全般 (自動運転含む)

# 令和3年度公募の対象分野等

(注意) 令和3年度は、政策重点分野の公募を休止

	共創分野	地域共創分野（令和3年度新設）
対象分野 医療分野に限定される研究開発は対象外	科学技術分野全般	科学技術分野全般
制度趣旨	知識集約型社会を牽引する <b>大学等の強みを活かし</b> 、ウィズ／ポストコロナ時代の未来のありたい社会像実現を目指す、自立的・持続的な産学官共創拠点の形成	<b>地域大学等を中心とし、地方自治体、企業等とのパートナーシップ</b> による、地域の社会課題解決や地域経済の発展を目的とした、自立的・持続的な地域産学官共創拠点の形成
目指す拠点ビジョン（ありたい社会の姿）	<b>国レベルやグローバルレベルの社会課題</b> を捉えた、 <b>10～20年後</b> の未来のありたい社会像	<b>地域の社会課題</b> を捉えた、 <b>おおむね10年後</b> の未来のありたい地域の社会像
委託費※1 （間接経費含む）	育成型：2.5千万円/年度 本格型：最大3.2億円/年度	育成型：2.5千万円/年度 本格型：最大2億円/年度
支援期間※2	育成型：2年度 本格型：最長10年度	育成型：2年度 本格型：最長10年度
令和3年度公募採択予定件数※3	育成型：4件程度 本格型：2件程度	育成型：8件程度 本格型：2件程度

※1 「直接経費(研究開発経費とプロジェクト推進経費)」と「間接経費」の合計額

※2 実際の期間は、プロジェクト実施計画書の精査・承認により決定  
（各種評価の結果等に応じて、実施期間中に中止の場合もあり）

※3 実際の件数は、公募・審査の結果、異なる場合あり

# 地域共創分野 新設の背景等

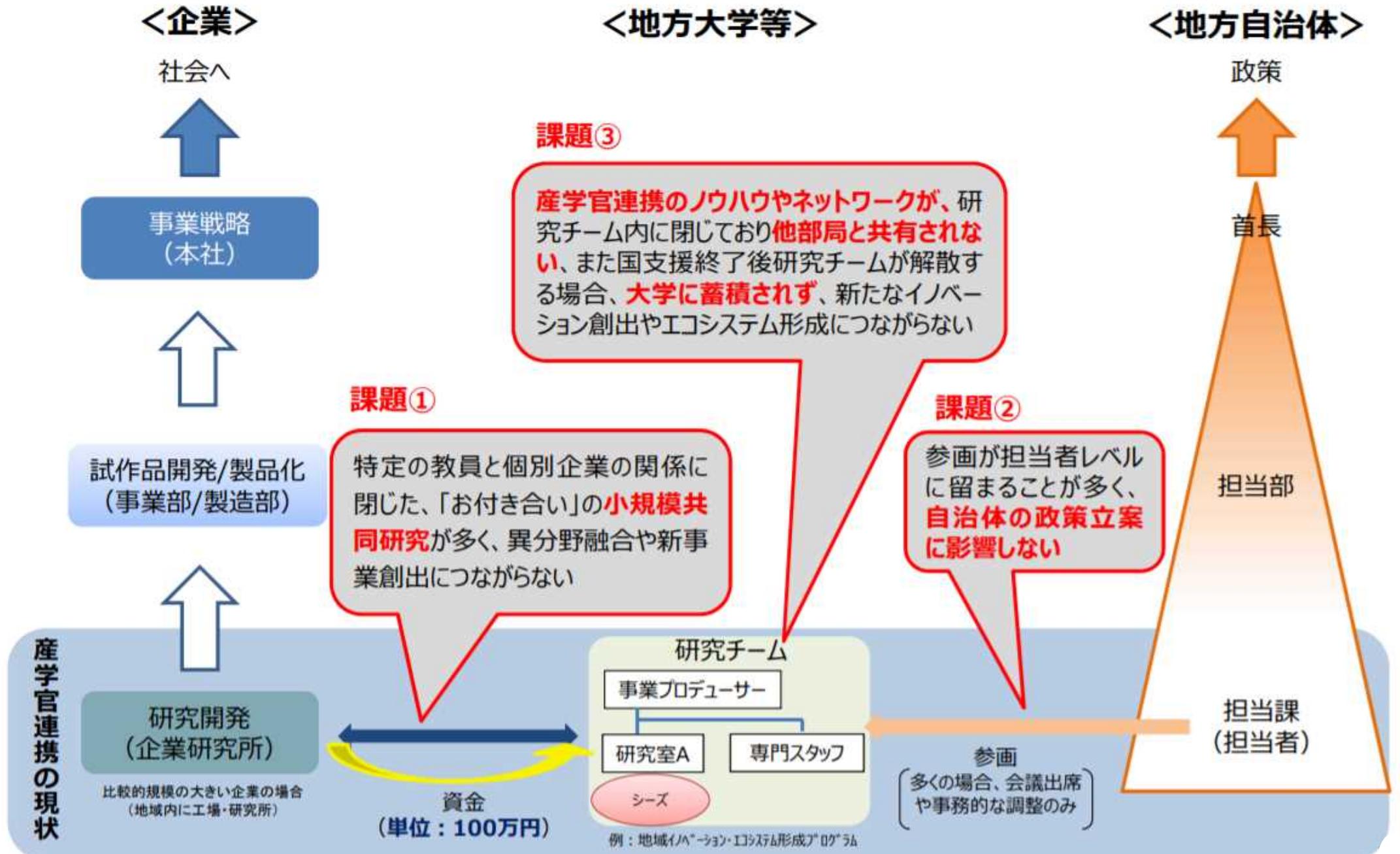
## 【共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT） 設置の背景】

- 将来の不確実性や知識集約型社会に対応したイノベーション・エコシステムを産学官の共創（産学官共創）により構築することが必要。
- 「ウイズ／ポストコロナ」の社会像を世界中が模索する中、産学官民で将来ビジョンを策定・共有し、その実現に向かって取り組むことが必要。
- 経済が厳しい状況にある中、国が重点的に支援し、大学等を中核とした組織対組織の本格的な共同研究開発の推進と環境づくりを進めることが重要。

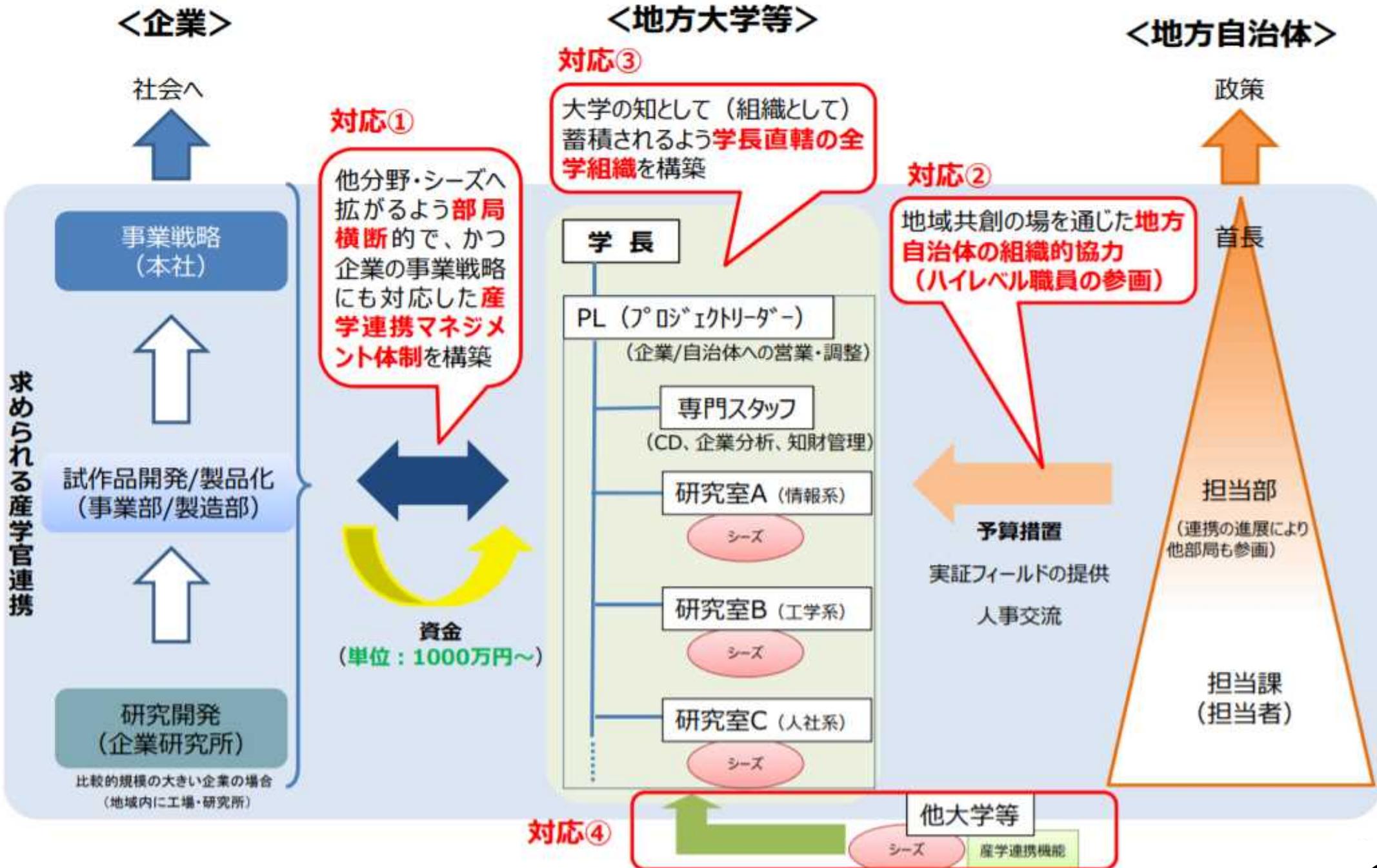
## 【地域共創分野 新設の背景】

- 新型コロナウイルス感染症拡大は、知的・人的・物的リソースを都市部に依存する一極集中型の日本社会の脆弱性を浮き彫りに。
- 地域への分散化によって、強靭性（レジリエンス）を獲得・リスクを最小化し、地域産業・社会の抱える課題を地域が自立的・持続的に解決し続ける仕組みとなるイノベーション・エコシステムの構築が急務。
- 絶えず変化・複雑化する地域の課題に対し、知の拠点である地域大学等、地域ニーズを把握している地方自治体、出口となる企業が連携し、地域における産学官の地域共創の場の構築が必要。

# 地方大学等における課題のイメージ



# 地方大学等における課題に対する今後の対応策のイメージ



# 地域共創分野を通じて成し遂げたいこと

## SDGs×ウィズ/ポストコロナの 社会像（ビジョン）共有



バックキャストによる  
イノベーションに資する  
研究開発

自立的・持続的な  
産学官共創拠点の形成

## 1. 地域拠点ビジョンの策定・共有における徹底議論

- ・「地域共創の場」を活用（提案時点の設置は必須ではない）
- ・多様なステークホルダーを巻き込みつつ策定・共有することが必要
- ・壁にぶつかった時に立ち戻る原点こそ地域拠点ビジョン、従ってメンバーで腹落ちする地域拠点ビジョンを共有することが不可欠（リーダーからの単純なトップダウンであってはならないと考える）
- ・採択後も、地域拠点ビジョンは「地域共創の場」での徹底した議論と、状況の変化に応じた柔軟な見直しが必要

## 2. 「誰のため」「何を解決したいか」の掘り下げ

- ・地域共創である以上、地域の市民や住民は重要なステークホルダー
- ・市民や住民の生の声を聞いて、どの地域のどんな年齢層の人たちの課題を解決するのかなど、より具体的に掘り下げて議論すべき
- ・市民や住民を巻き込んで共感を得つつ、地域一体のムーブメントに繋がっていけば理想的

## 3. 地域における「組織」対「組織」の連携強化

- ・「**地域の特色に応じた**」「**組織対組織**」の本格的な産学官連携
- ・地域大学等と自治体、企業等が**お互いに必要な存在と認め合い、持続的で緊密なパートナーシップを築く**ことを強く期待（※）
- ・そのためには、上記それぞれが、従来の考え方やビジネスに固執しては対応できない（自己変革が必要）

### ※補足

- （代表機関・幹事自治体以外の）参画機関の大学等・企業等は、当該地域内にある必要はない
- 自治体、企業等が研究開発にどう関わるか、役割分担を明確にしてもらいたい

## 4. 顔の見えるリーダーシップ

- ・地域の産学官共創を**組織的に推進していく上で重要なのは「人」**
- ・**熱い志、高いエネルギーをもった顔の見える人**が周囲を巻き込み、地域一体の活動を牽引し盛り上げることを大いに期待
- ・**若手や多様性に富む方々がプロジェクトを牽引**することも期待

後日（提案締切前までに）ホームページ上で公表予定

# POからのメッセージ:まとめに代えて

- 「現地現物主義」がモットー：地域ごとの現場を見て、理解し、地域の方々へ寄り添いたい
- 地域の産学官連携により社会課題を解決する着実な活動・実績を期待したい
- こうした活動・実績を全国各地で生み出し、それが徐々に波及する流れを生み出したい

**意気込み・チャレンジあふれるご提案を、心より楽しみにしています**